

西陣の町小路には、いにしへよりもろの呉服織出す事際限なし。金欄錦唐織のるいなど新もやうを織んと思ふ時は、其地紋を紙に図し、豎横に糸の如く筋を引、花には糸数何ほどと定め、其織物の機組を白き糸にて十分一の雛形を拵るなり。足を求めて手本とし、手配してさまざまの地紋ある所を織出す也。名づけて高機といふ。

天鷲織びろうとををるてい

天鷲織は針金を入れて織也。紋天鷲織は其針金の浮沈にてもやう顕るるなり。